

第69回 全国植樹祭 ふくしま 2018

実施計画〔概要版〕



苗木のスクール ステイ (南会津町)	花見山 (福島市)	相馬野馬追 (南相馬市)	
鶴ヶ城 (会津若松市)	三春滝ザクラ (三春町)		緑の少年団 による植樹 (南相馬市)
	阿武隈川 源流 (西郷村)	プランター カバー 製作体験 (郡山市)	塩屋崎灯台 (いわき市)
燧ヶ岳 (檜枝岐村)			

目次

第1章 開催概要

1. 開催意義	1
2. 福島県における全国植樹祭の開催状況	2
3. 開催理念	3
4. 大会コンセプト	3
5. 大会テーマ	4
6. シンボルマーク	4
7. 大会ポスター原画	4
8. 大会テーマソング	5
9. 開催日	5
10. 主催	5
11. 開催規模	5
12. 開催地概要	6

第2章 式典行事

1. 基本的な考え方	7
2. 式典演出計画	7
3. 式典運営計画	7
4. 式典演出イメージ	8
5. 式典進行計画	11

第3章 植樹行事

1. 基本的な考え方	12
2. お手植え・お手播き計画	13
3. 代表者記念植樹計画	14
4. 招待者記念植樹計画	15

第4章 会場整備計画

1. 基本的な考え方	16
2. 施設配置計画	17
3. 主要施設計画	18
4. 飾花計画	20
5. 案内・誘導計画	20
6. 電気・給排水・通信設備計画	20
7. 中継システム計画	21

第5章 運営計画

1. 基本的な考え方	22
2. 招待計画	22
3. 招待者行動計画	23
4. 受付計画	24
5. 作品御覧・レセプション計画	25
6. 会場内動線計画	26
7. 会場おもてなし計画	27
8. サテライト会場・PR会場計画	28
9. 昼食計画	30
10. 医療・衛生計画	30
11. 消防・防災・警備計画	31
12. 実施本部計画	32
13. 研修・リハーサル計画	33
14. 雨天時・強風時対応計画	33

第6章 宿泊・輸送計画

1. 基本的な考え方	34
2. 宿泊計画	35
3. 輸送計画	36
4. 視察計画	37

第7章 荒天時計画

1. 基本的な考え方	38
2. 会場	38
3. 参加者一覧	39
4. 荒天時運営計画	39

第8章 記念事業等計画

1. 基本的な考え方	40
2. 記念事業	40
3. 関連事業	42

第9章 広報宣伝・協賛計画

1. 基本的な考え方	43
2. 広報宣伝計画	43
3. 協賛計画	43

1. 開催意義

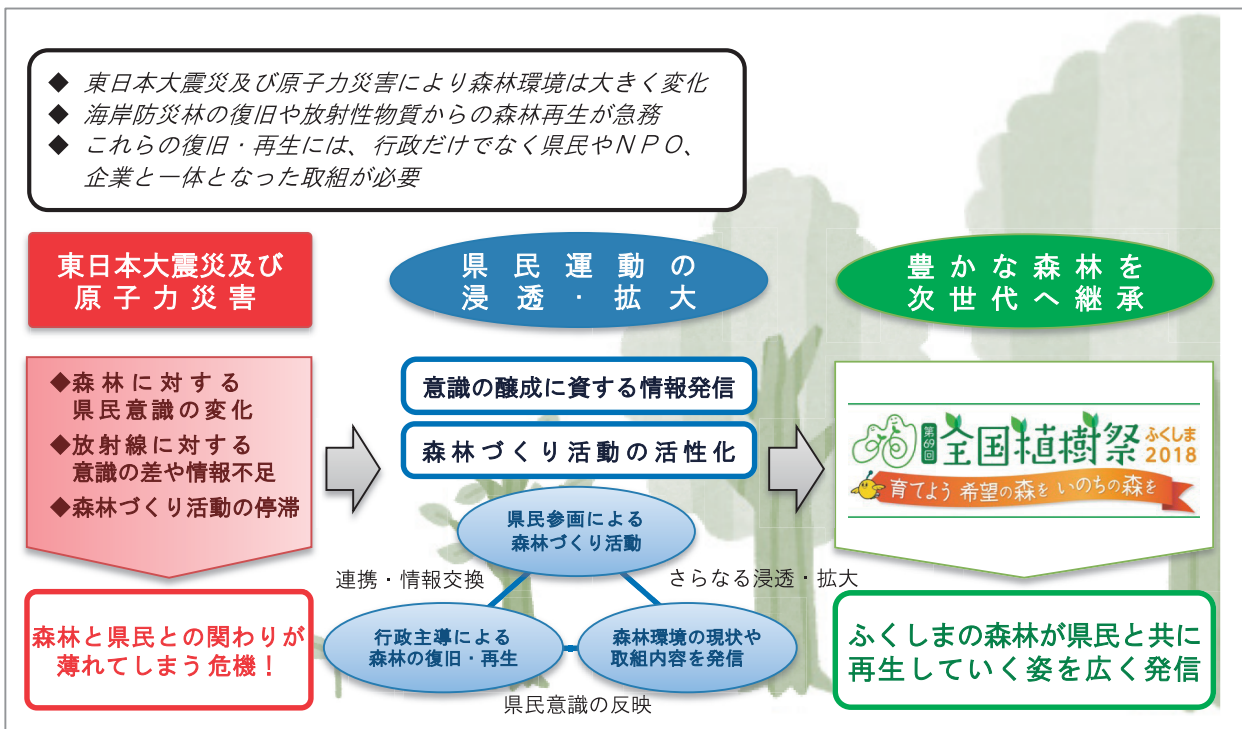
本県は、豊かな森林を守り育て、健全な状態で次の世代へと引き継いでいくため、平成17年に「森林文化のくに・ふくしま県民憲章」を制定しました。

また、平成18年から森林環境税を導入し、森林環境を適正に保全するための森林整備の推進や県民一人一人が参画する新たな森林づくり活動の推進など、緑あふれる県土づくりに努めてきました。

こうした中、平成23年3月11日に発生した東日本大震災の大津波により、海岸防災林の6割が流出しました。また、それに続く東京電力福島第一原子力発電所の事故により、森林を取り巻く環境が大きく変化し、森林と人との関わりが薄れつつあります。

このため、より一層の県民参画による森林づくり活動を推進するとともに、林帯幅を上げた防災機能の高い海岸防災林の整備や放射性物質の影響を受けた森林の再生に取り組んでいます。

平成30年（2018年）に開催する全国植樹祭は、東日本大震災と原子力災害で甚大な被害を受けた本県が、緑豊かなふるさとの再生を進めていく上で、シンボルとなる大会です。



【海岸防災林の復旧】

- ◆平成32年度の完成を目標に、面積606haを整備。
- ◆飛砂・潮害、風害防備等の災害防止機能だけでなく、津波等の被害から県民の生命財産を守るため、概ね200mの林帯幅を確保し、地下水位から3m程度の盛土と、クロマツ等の植栽を実施。

※海岸防災林の復旧状況
 [南相馬市小高区]

2. 福島県における全国植樹祭の開催状況

全国植樹祭は、豊かな国土の基盤である森林・緑に対する国民的理解を深めるため、昭和25年（1950年）から開催されている国土緑化運動の中心的行事です。

本県では、昭和45年（1970年）5月19日、耶麻郡猪苗代町天鏡台において、「後継者の森」をテーマに、第21回大会を開催しました。

大会では、昭和天皇・香淳皇后から津島マツのお手植えを賜るとともに、県内外からの2万2千人の参加者が20ヘクタールの広大な原野に約5万本のアカマツを植栽しました。

さらに、郡山市安積町の福島県林業試験場（現在の福島県林業研究センター）において、昭和天皇・香淳皇后から飯豊スギ・津島マツ種子のお手播きを賜りました。

その後、天鏡台の会場は、昭和天皇御即位50周年を記念して「福島県昭和の森」として整備され、昭和56年のオープン以来、緑に囲まれた憩いの場として広く県民に親しまれています。

平成12年9月17日には、第24回全国育樹祭が「ふるさとの 大地に広がれ 緑の輪」をテーマに猪苗代町天鏡台で行われました。全国植樹祭において昭和天皇がお手植えされたアカマツを、皇太子同妃両殿下がお手入れされました。

【昭和45年（1970年）猪苗代町天鏡台で開催された第21回大会の様相】



大会会場に御到着された昭和天皇・香淳皇后



昭和天皇・香淳皇后御臨席



昭和天皇によるお手植え



香淳皇后によるお手植え

3. 開催理念

本県は、全国第4位の森林面積（※）を有し、広大な県土の約7割が森林に覆われた森林県であり、県民一人一人が森林に親しみ、守り育てる心を共有しながら県内各地で森林づくり活動を進めてきました。

しかし、東日本大震災により海岸防災林が大きな被害を受け、また、東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴う放射性物質の影響により、森林づくり活動や森林環境学習の場としての活用が低調となり、森林と人との関係が薄れつつあります。

このため、私たち福島県民は、全国植樹祭を本県の森林再生の取組の目標とするとともに、国内外からの支援に対する感謝の気持ちを広く発信する大会として、県民一丸となって取り組みます。

また、「森林文化のくに・ふくしま県民憲章」に記される、

森林を敬い、あらゆるいのちを尊ぶ心
 森林にふれあい、豊かに生きる心
 森林の恵みに感謝し活かす心
 森林を全ての県民で守り育て未来につなぐ心

を尊重し、全国植樹祭の開催を通じて県民一人一人が参画する森林づくり活動をさらに推進します。

以上を踏まえ、次の開催理念のもとに第69回全国植樹祭を開催します。

開催理念

- 県民参加の森林づくり活動を推進します。
- 海岸防災林の復旧・再生や放射性物質の影響を受けた森林の再生を目指します。
- 大会開催を契機とし、本県の復興・発展を加速する原動力とします。
- 県内外の多くの方が参加できるようにします。
- 国内外からの支援に対する感謝と復興に向かって強く歩み続ける福島の姿を広く発信します。

4. 大会コンセプト

ふくしまから発信する森林づくり

千年に一度の大災害から復興した海岸防災林を会場に、植樹活動による人と人とのつながり、ふるさとへの思い、未来への希望を、国内外に発信する、被災地において初めての大会です。

※ 森林面積：北海道、岩手県、長野県に次ぐ森林面積を保有し、面積は県土1,378千haの71%を占める975千ha。（平成28年福島県森林・林業統計書）

5. 大会テーマ

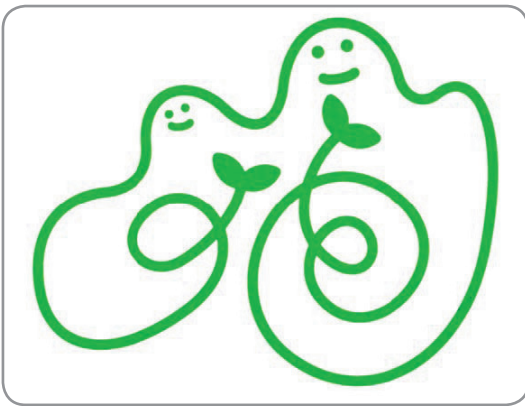
全国から応募のあった2,274点の作品の中から選考しました。

育てよう 希望の森を いのちの森を

◆作者：稲田 昭子さん〔長野県飯山市〕

◇選定理由：人に希望を与える森をつくること、いのちを守る森をつくることを素直に呼びかけている。

6. シンボルマーク



全国から応募のあった324点の作品の中から選考しました。

◆作者：小柴 雅樹さん〔兵庫県宍粟市〕

◇選定理由

「緑豊かなふるさとの再生」と「親子で植樹する」というイメージが、デフォルメされた福島県の地形により、シンプルに表現されている。

7. 大会ポスター原画



県内の小・中・高校生から応募のあった503点の作品の中から選考しました。

◆作者：葛西 由佳さん
〔郡山女子大学附属高等学校 2学年〕
※平成28年度現在

◇画題：未来への希望の苗

◇制作意図：人の手によって自然をつくる様子を、生き生きとした苗木で表現しました。

◇選定理由：ふくしまの明るい未来への希望を苗木の成長に託した作品。

見上げる笑顔と苗木の広がり未来への希望を感じさせ、躍動感にあふれ、力強い生命力のイメージがよく表現されている。

8. 大会テーマソング

グループ名が全国植樹祭の「みどり」のイメージと重なることや、若者から中高年まで幅広い世代に親しまれていることから、本県ゆかりのボーカルグループ「GReeeeN」に大会テーマソングを制作していただきました。

◆楽曲名 福ある島 ◆作詞／作曲／唄 **GReeeeN**

◇**GReeeeN**からのコメント

僕達GReeeeNの大切な故郷、
『福島』から今回のお話をいただき、
大変光栄に思っております。

やさしく、そして雄大な福島を自然。
春は三春の滝桜や花見山、
夏は猪苗代湖で遊び、
秋は浄土平、冬は裏磐梯。

喜多方で蔵を見たり、会津で歴史に触れ、
いわきのハワイアンズや
アクアマリンふくしまで遊んだり、
あげればキリがありません。

あの景色を、同じ時間を見て生まれ育った人々の
あたたかさを思いながら今回の楽曲を制作いたしました。

植樹祭で植える苗木達が福島未来にかけがえの無い、
大きな森へと育っていくようにこの曲も皆さんに愛され、
大きな木になればいいと願っております。

日本という島に愛と福の風が吹き、
心の故郷はいつもそばにある。

どんな時でもそこに『おかえり』が
待っているんだと思います。



9. 開催日

平成30年（2018年）6月10日（日）

10. 主催

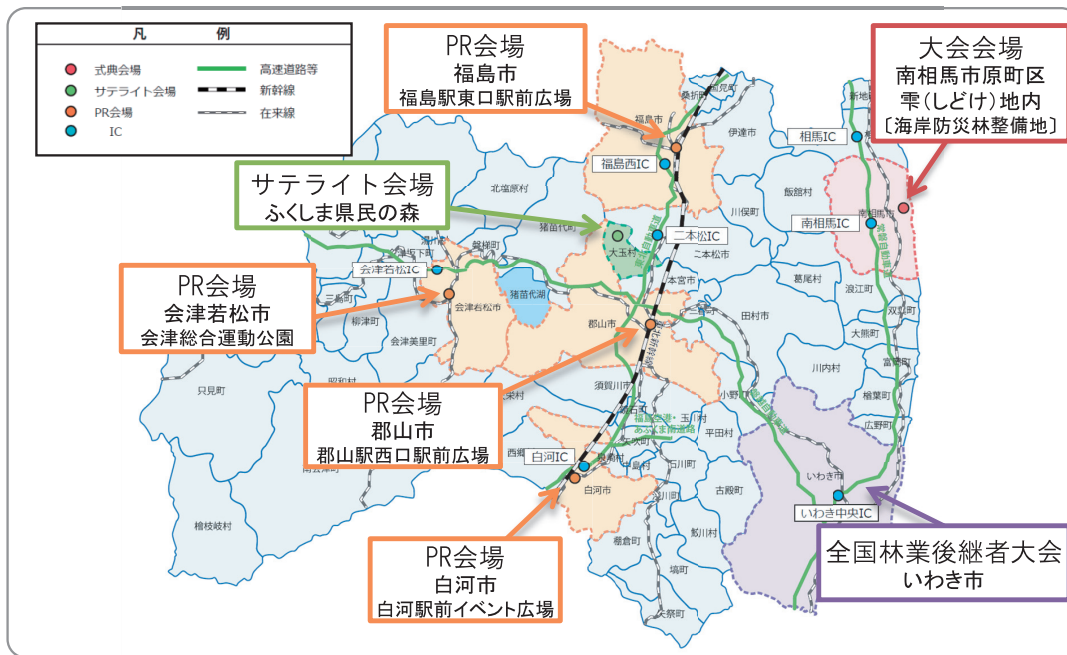
公益社団法人 国土緑化推進機構
福島県

11. 開催規模

式典行事の参加者は、県内外招待者、出演者、スタッフ等を含め9千名程度、サテライト会場・PR会場を含め、当日の参加者は1万3千名程度、記念事業等の参加者を含めると4万8千名程度の規模で開催します。ただし、荒天の場合は規模を縮小して行います。

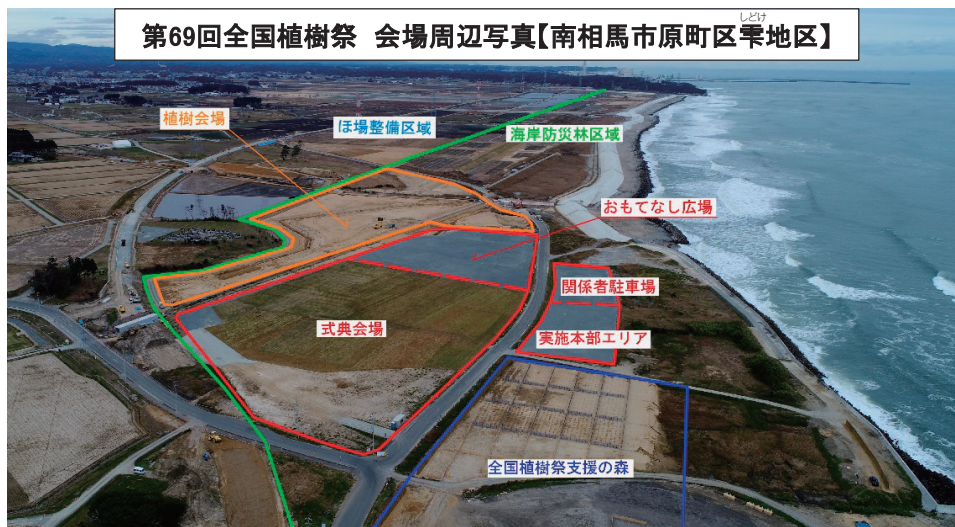
参加区分	参加予定者数	備考
県外招待者	2,200名	国関係者・被表彰者・他県招待者等
県内招待者	3,800名	県関係者・市町村関係者・学校関係者・森林林業関係団体・特別協賛企業・森林ボランティア・公募招待者・県実行委員会等
出演者・運営スタッフ	3,400名	出演者・運営ボランティア・協力員・実施本部員
式典行事参加者計	9,400名	
サテライト会場	2,000名	
PR会場	2,000名	
当日参加者計	13,400名	
記念事業等	34,600名	プレイベント・植樹リレー、海岸防災林における森林づくり活動等
合計	48,000名	

12. 開催地概要



(1) 式典会場

復興に向けて力強く歩み続ける姿と、国内外からの支援に対する感謝の気持ちを発信できること、県民参加の森林づくりを広く展開できる会場であることを考慮し、南相馬市原町区雫地内の海岸防災林とします。



(2) サテライト会場

多くの県民が植樹活動に参加し、全国植樹祭を共有できるよう「ふくしま県民の森（安達郡大玉村）」にサテライト会場を設けます。

(3) PR会場等

全国植樹祭の開催意義や豊かな森林づくりへの取組を広く伝えるため、福島市・郡山市・白河市・会津若松市にPR会場を設けます。また、全国植樹祭の関連行事である全国林業後継者大会をいわき市で開催します。

1. 基本的な考え方

第69回全国植樹祭が、緑豊かなふるさとの再生と復興に向けて力強く歩み続ける本県の姿や、国内外からの支援に対する感謝の気持ちを広く発信する大会であることを踏まえ、次の事項を基本に式典行事を実施します。

- 全国からの参加者はもちろん、多くの県民に大会の開催理念や大会テーマ「育てよう 希望の森を いのちの森を」を伝えるとともに、国内外からの支援に対する「感謝」と「緑豊かなふるしまの未来」を表現します。
- 県民参加の森林づくり活動の様子、海岸防災林の復旧・再生や放射線物質の影響を受けた森林の再生への取組等を紹介し、広く「ふるしまの森林」を発信します。
- 合唱や吹奏楽等、全国的な知名度を誇る本県らしく、美しいハーモニーを式典の随所に取り入れながら演出を行います。

2. 式典演出計画

式典は「プロローグ」、「記念式典」、「エピローグ」の3部構成とします。

区分	テーマ	演出の内容
プロローグ	心から感謝をこめて	東日本大震災からの復興、海岸防災林及び緑豊かなふるさとの再生の状況等を紹介するとともに、復興支援への感謝の気持ちと県内外からの参加者への心からの歓迎の気持ちを表現します。
記念式典	育てよう 希望の森を いのちの森を (大会テーマ)	大会テーマ「育てよう 希望の森を いのちの森を」にこめられた想いを広く発信します。
エピローグ	未来に向かって	東日本大震災からの復興と再生に向け、福島県民が想いを一つにし、力強く進んでいく決意を表現します。

3. 式典運営計画

式典の運営は、次の事項を基本とし、本県らしさを感じていただける運営を行います。

- 招待者の安全と快適さに配慮するとともに、ボランティアや緑の少年団等の協力を得ながら、本県らしさを生かした「おもてなし」の心をもって運営を行います。
- 司会者、大会アシスタント、音楽隊などの出演者は、地元団体をはじめとする県内関係団体の積極的な協力と参加を得て編成します。
- 県内全域で展開する植樹祭を目指し、式典会場とサテライト会場の中継や、PR会場への式典映像の配信を行います。

4. 式典演出イメージ

プロローグ 一心から感謝をこめてー
復興支援への感謝の気持ちと歓迎の気持ちを表現します

歓迎アトラクション

本県の浜通り、中通り、会津地方それぞれの民俗芸能や震災からの復興を象徴するアトラクションを行い、招待者を歓迎します。



フラ（浜通り）



霊山太鼓（中通り）



山木屋太鼓（中通り）



会津彼岸獅子（会津）

東日本大震災復興支援への感謝

東日本大震災の支援への感謝の気持ちを桜の苗木に添えて、全国の都道府県や駐日外国公館に贈呈します。贈る苗木は、「三春滝ザクラ」と「はるか」です。

● 三春滝ザクラ

樹高13.5m 幹周り8.1m 樹齢1,000年以上（推定）

田村郡三春町に生育しているベニシダレで、大正11年に国の天然記念物の指定を受けた名木です。式典当日、皇后陛下には三春滝ザクラより採取した種子をお手播きいただきます。

贈る苗木は三春町立中郷小学校の児童が育てたものです。



● はるか

国立研究開発法人森林総合研究所が開発し（平成24年12月に新品種として登録出願）、福島県に贈られた新品種の八重桜です。平成25年のNHK大河ドラマ「八重の桜」主演の綾瀬はるかさんによって命名されました。福島・東北を応援するシンボルとして、はるかかなたの未来にまで広がってほしいという想いが込められています。

贈る苗木は福島県が育てたものです。



もり 森林とのきずなづくり植樹リレーゴールセレモニー

平成28年度より県内全市町村を巡った「森林とのきずなづくり植樹リレー」のゴールセレモニーを行います。



大会1年前記念イベント



木製プレート



木製バトン

記念式典 —育てよう 希望の森を いのちの森を(大会テーマ)—
大会テーマにこめられた想いを発信します

記念式典

天皇皇后両陛下によるお手植え・お手播き、国土緑化功労者等の各種表彰、大会宣言等を行います。



第68回全国植樹祭とやま2017 お手植え

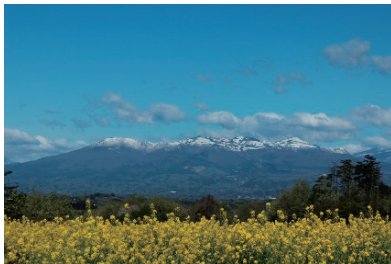


第68回全国植樹祭とやま2017 お手播き



メインアトラクション(大会テーマ表現)

オール福島の若者が演じる創作アトラクション。
演劇、ダンスにより構成し、大会テーマや県民が明るく希望を持って未来に向けて進む姿を「高村光太郎・智恵子」をモチーフに表現します。



安達太良(あだたら)山

福島県中部に位置する安達太良山は、彫刻家・詩人である高村光太郎の詩集『智恵子抄』に登場することで知られています。

智恵子は、福島県の二本松市(旧 油井村)出身の洋画家です。

— 阿多多羅山(安達太良山)の山の上に
毎日出てある青い空が
智恵子のほんとの空だといふ。
あどけない空の話である。—

高村光太郎「あどけない話」詩集『智恵子抄』より



エピローグ —未来に向かって—
県民が想いを一つにし、復興に向かって力強く進んでいく決意を表現します

二元中継

サテライト会場(ふくしま県民の森)と中継を結び、参加者の植樹の様子などを紹介します。
※式典会場の様子は、県内4つ(福島・郡山・白河・会津)のPR会場で放映します。

メッセージ

未来を担う子どもたち(緑の少年団の代表者)が「ふくしまから発信する森林づくり」のメッセージを朗読します。



若者による地域文化の発信

開催地域の伝統文化を基に、東日本大震災からの復興と再生に向け、県民が力強く進んでいく姿を表現します。

—相馬野馬追騎馬武者行列

開催地域の伝統行事である相馬野馬追の威風堂々とした騎馬武者行列と騎馬武者による口上を実演します。



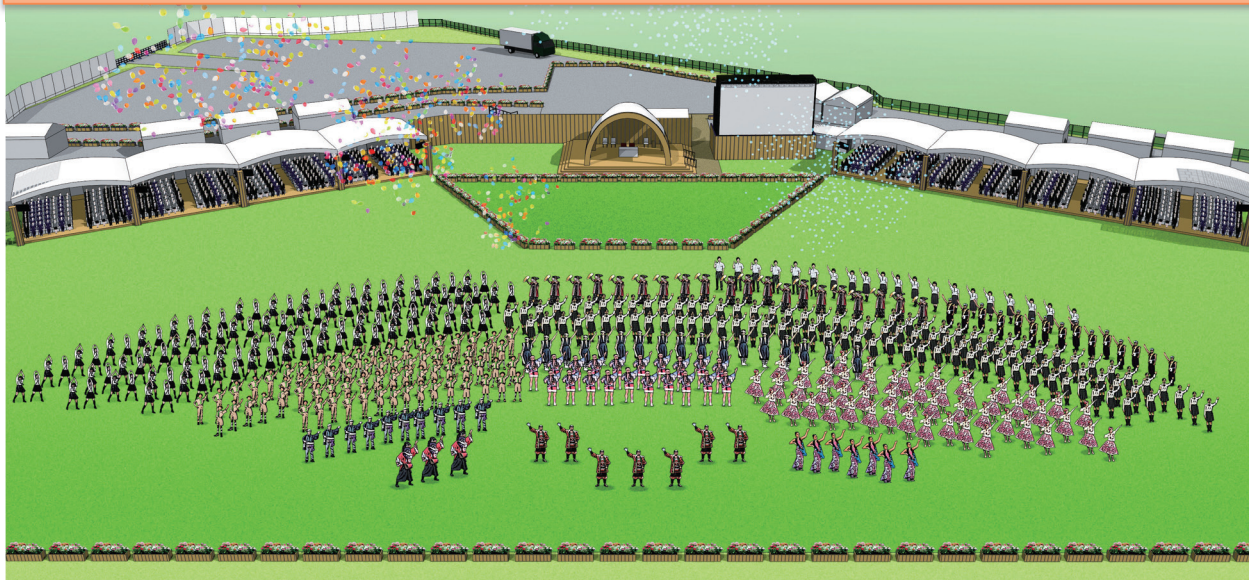
—「相馬流山」の主題による変奏曲

相馬地方の伝統的民謡「相馬流れ山」・吹奏楽・合唱・踊りにより、未来に引継ぐ地域文化を実演します。



グランドフィナーレ(大会テーマソングの大合唱)

出演者全員が登場し、大会テーマソング『福ある島』(作詞・作曲:GReeeeN)の大合唱により、復興再生に向けた想いを一つにします。



5. 式典進行計画

進行スケジュール詳細

■プロローグ(45分)「心から感謝をこめて」				
	プロローグ案内		BGM(CD)	タイトル
13:35	福島県の紹介映像・プロローグアトラクション	県内民俗芸能団体等	生演奏	福島県紹介映像 LIVE映像
～	感謝状贈呈	贈呈：福島県知事 受贈：各受賞者	BGM(CD)	LIVE映像
14:20	東日本大震災復興支援への感謝	贈呈：福島県知事 受贈：他道府県知事、駐日大使 立会：復興大臣	BGM(CD)	LIVE映像
	森林とのきずなづくり植樹リレーゴールセレモニー	贈呈：福島県森林・林業・緑化協会会長 受贈：福島県知事	吹奏楽	LIVE映像
	記念切手の贈呈	贈呈：日本郵便㈱代表取締役社長 受贈：福島県知事	吹奏楽・合唱	LIVE映像
	式典行事案内		BGM(CD)	タイトル
■記念式典(50分)「育てよう 希望の森を いのちの森を」				
	天皇皇后両陛下 御到着・御徒歩・御着席	御先導：福島県知事 お迎え：大会会長、国土緑化推進機構理事長	ファンファーレ 吹奏楽	LIVE映像
	黙とう			LIVE映像
	開会のことば	国土緑化推進機構副理事長	ファンファーレ	LIVE映像
	三旗掲揚・国歌斉唱	掲揚：緑の少年団、ボーイスカウト・ガールスカウト	吹奏楽・合唱	LIVE映像
	主催者挨拶	大会会長・福島県知事		LIVE映像
	表彰	贈呈：大会会長、農林水産大臣、文部科学大臣、 福島県知事 受賞：受賞者代表	吹奏楽	LIVE映像
14:20	苗木の贈呈	贈呈：緑の少年団 受贈：農林水産大臣・環境大臣	BGM(CD)	LIVE映像
～	天皇皇后両陛下お手植え・お手播き	御先導：福島県知事・国土緑化推進機構理事長 介添え：緑の少年団	吹奏楽・合唱	LIVE映像
15:10	代表者記念植樹	記念植樹代表者		
	メインアトラクション(大会テーマ表現)	若者を中心とした出演者	BGM(CD)	LIVE映像
	大会宣言	国土緑化推進機構理事長	ファンファーレ	LIVE映像
	リレーセレモニー	福島県知事・愛知県知事	BGM(CD)	LIVE映像 愛知県紹介映像
	閉会のことば	福島県県議会議長	ファンファーレ	LIVE映像
	天皇皇后両陛下 御退席・御徒歩・御出発	御先導：福島県知事 お見送り：大会会長、国土緑化推進機構理事長	吹奏楽・合唱	LIVE映像
■エピローグ(30分)「未来に向かって」				
	エピローグ案内		BGM(CD)	タイトル
	二元中継	サテライト会場参加者(中継)		LIVE映像
15:10	緑の少年団 メッセージ	緑の少年団		LIVE映像
～	エピローグアトラクション	若者を中心とした出演者	吹奏楽	LIVE映像
15:40	グランドフィナーレ	参加者全員	吹奏楽・合唱	LIVE映像
	終了		BGM(CD)	タイトル

1. 基本的な考え方

東日本大震災の大津波による大きな被害から復旧した海岸防災林を会場に、未来につなぐ希望の森林づくりを進めるため、次の事項を基本に植樹行事を行います。

- 式典会場内に、お手植え所、お手播き所、代表者記念植樹地を設けます。
- 招待者記念植樹は式典会場に隣接した海岸防災林に設け、本県の復興を強く印象づけるものとします。
- 植樹行事の実施に当たっては、本県の自然条件に適した樹種の選定等、地域の特性に応じた森林づくりを目指します。
- 多くの県民が植樹活動に参加できるように、サテライト会場にも植樹会場を設けます。

会場	位置	内容	
式典会場	お手植え所	天皇皇后両陛下	お手植え
	お手播き所		お手播き
	特別招待者席前	招待者の代表	代表者記念植樹
植樹会場	南相馬市原町区栗地区の海岸防災林地内	県内外招待者(代表者以外)	招待者記念植樹
サテライト会場	福島県民の森(大玉村)	サテライト会場参加者	一般参加者植樹

2. お手植え・お手播き計画

(1) お手植え

- 天皇皇后両陛下のお手植えは、お手植え所で「森」の字をかたどり、それぞれ3本の植樹とします。
- お手植え木は、大会開催の記念樹となり、豊かな森林づくりのシンボルとして、大切に育てていきます。

■ お手植え樹種

天皇陛下	クロマツ	ケヤキ	スダジイ
			
	アカマツ	ヤマザクラ	ヤブツバキ
皇后陛下			

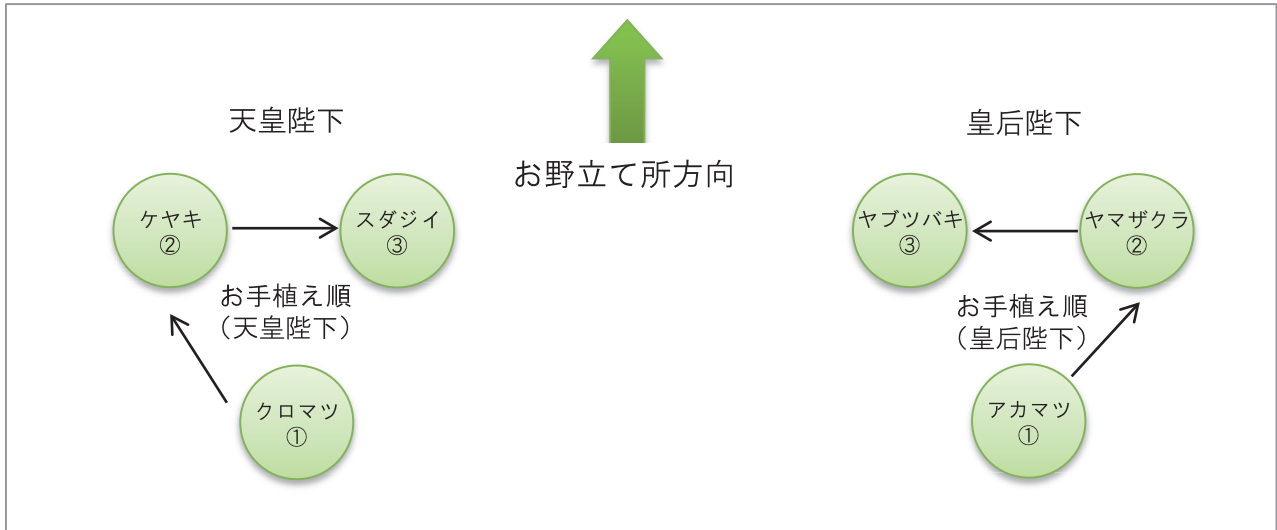
(2) お手播き

- 天皇皇后両陛下のお手播きは、お手播き所で、お手播き箱へそれぞれ2種類の播種とします。
- お手播きされた種子から養成した苗木は、福島県が育て、県内の公共施設等に記念樹として配布します。

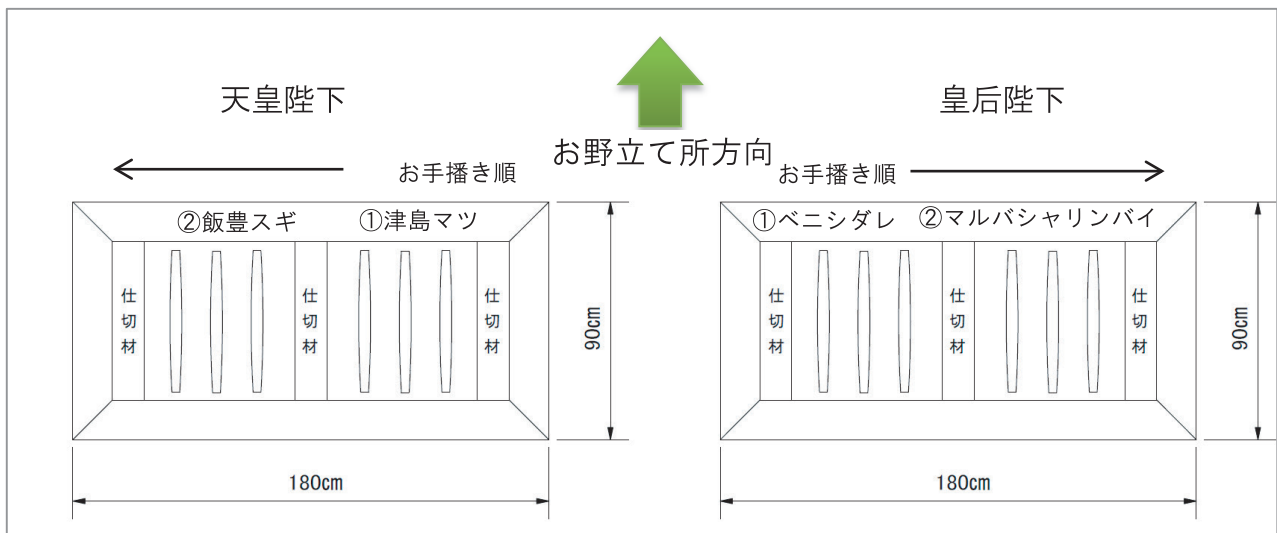
■ お手播き樹種

天皇陛下	津島マツ	飯豊スギ
		
皇后陛下	ベニシダレ	マルバシャリンバイ
		

【お手植え樹種配置図】



【お手播き樹種配置図】



3. 代表者記念植樹計画

- 植樹者は、天皇皇后両陛下の2本目のお手植えと同時に記念植樹を行います。
- 場所は、特別招待者席前で行うものとし、各自1本ずつ植樹を行います。
- 樹種は、天皇皇后両陛下のお手植えと同じ樹種を基本とします。
- 植樹者は、中央特別招待者、県内外特別招待者の中から50名程度とします。

4. 招待者記念植樹計画

- 招待者は、大会会場に隣接した海岸防災林4.6haで、大会当日の午前中に記念植樹を行います（植樹本数:約2万本）。
- 静砂垣（※1）により区画された区域毎に植樹を行います。植樹後は、徒歩で入場ゲートに向かい、大会会場へ入場します。
- 「苗木のスクールステイ（※2）」「苗木のホームステイ（※3）」等、多くの県民によって育てられた苗木を使用します。
- クロマツ、コナラ等、海岸防災林に適した樹種とします。

【招待者記念植樹会場】



【招待者記念植樹樹種（18種）】

アカマツ	イロハモミジ	エノキ	オオヤマザクラ	カシワ
クヌギ	クリ	クロマツ	ケヤキ	コナラ
コブシ	シラカシ	スギ	トチノキ	ブナ
ミズナラ	ヤマザクラ	ヤマボウシ	※50音順に記載	

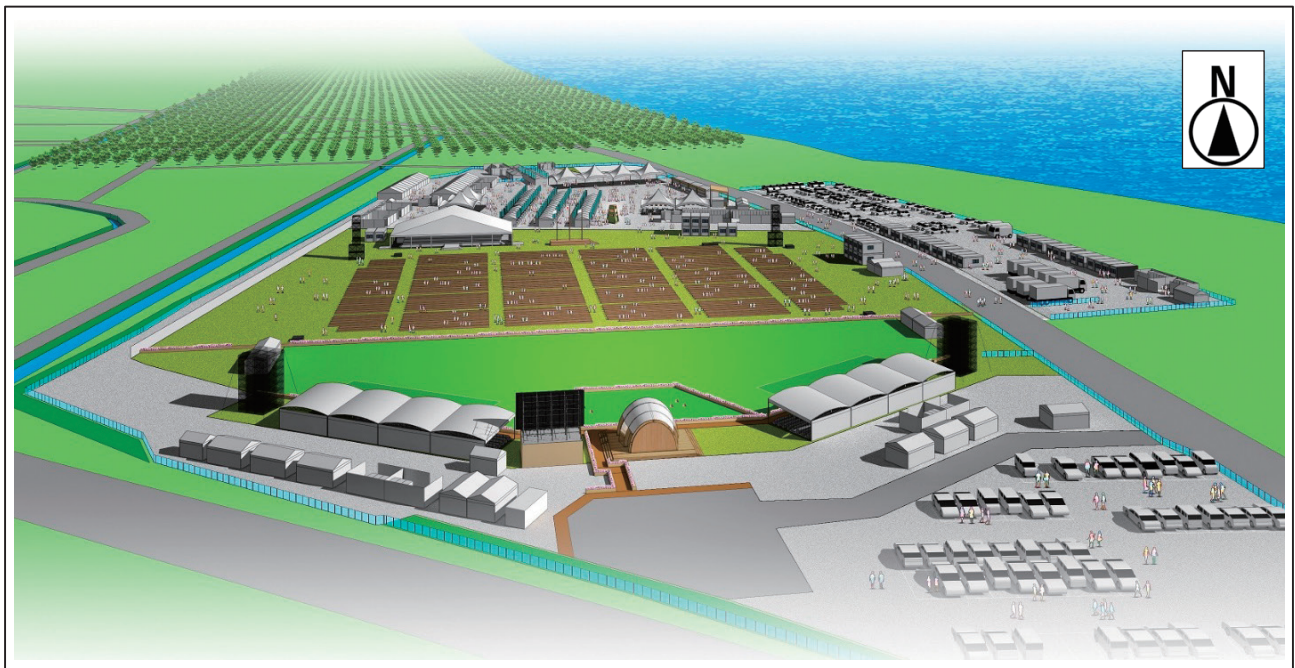
※1 静砂垣 風による砂の移動を防止し、植栽木の生育環境の整備を図るもの。
 ※2 苗木のスクールステイ 全国植樹祭等で使用する苗木の一部を、県内の小学校で育成してもらう取組。
 ※3 苗木のホームステイ 全国植樹祭等で使用する苗木の一部を、県内の企業や団体、家庭で育成してもらう取組。

1. 基本的な考え方

県内外の多くの方が参加できる大会となるよう、次の事項を基本に会場整備を行います。

- 海岸防災林の一部であることを考慮し、防災林造成計画と調整を図り、式典会場の造成を行います。
- 会場に設置する構造物等には、県産材をできる限り使用します。
- 全ての参加者が安全・快適に参加できるよう配慮します。
- 海岸防災林の復旧状況を見ることができるよう整備を行います。

【式典会場イメージ図】



2. 施設配置計画

- 会場は、式典エリア、本部エリア、おもてなし広場、入場チェックエリア等にゾーン分けします。
- 会場の周囲にはフェンス等を設置し、外部からの侵入防止対策を講じます。

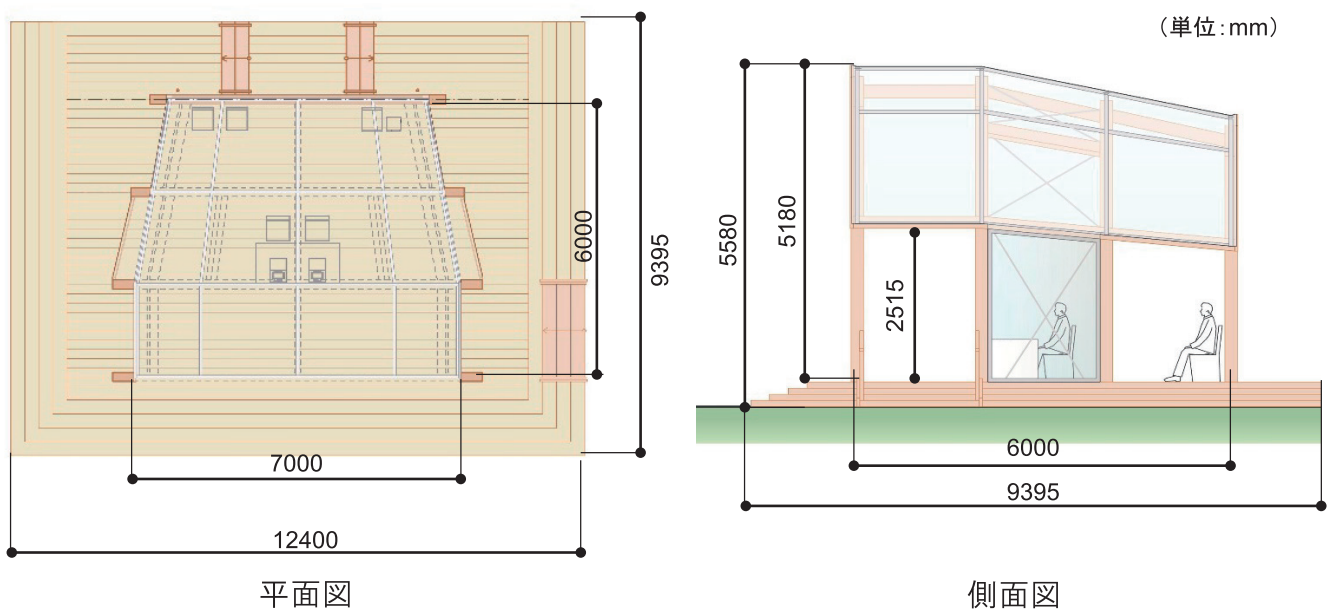
(1) 大会会場



3. 主要施設計画

(1) お野立て所

- 海岸防災林の復旧状況を見ることができる位置に配置し、県産スギ材を使用した仮設の構造物とします。
- 柔らかな曲線はなだらかな山並みが連なる阿武隈山地をイメージし、また、異なるアーチの組み合わせは虹をイメージし、県民が明るい未来に向かって歩む姿を表現しています。
- 設置に当たっては、風対策等の安全性を考慮した構造とします。



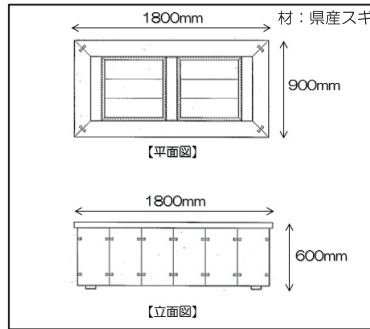
(2) 木製品

- お手播き箱、御鋤、プランターカバー、ベンチ等の木製品には、県産材を使用します。
- プランターカバーやベンチは、県内の子どもたちなどが、おもてなしの心を込めて製作します。
- 使用したプランターカバーやベンチは公共施設へ配布するなど、活用方法を検討します。

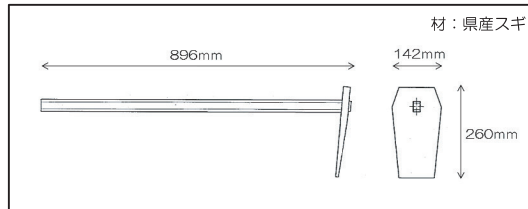
【木製品の製作】



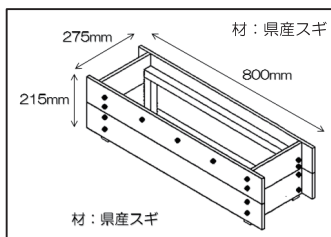
参考例：第67回全国植樹祭（長野県）



参考例：第68回全国植樹祭（富山県）



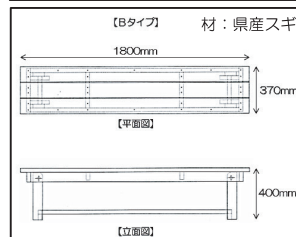
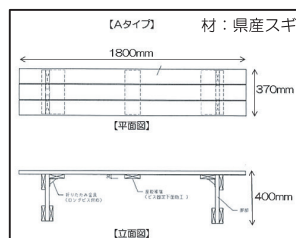
完成品



製作風景



完成品



製作風景

4. 飾花計画

- 会場及び周辺に、県内の高校生が歓迎の意を込めて育てた花などを使用し、会場の雰囲気を引き立てるとともに、参加者の安全かつ円滑な動線が確保できるよう配置します。
- お野立て所周りは、トルコギキョウなど県内産の代表的な花きの生花で飾花します。
- 会場内に設置するプランターは、県産材を使用します。
- 福島県を始め、関係市町村、関係団体、県民が一体となり、参加者へのおもてなしの心で、飾花や美化に努めます。

5. 案内・誘導計画

- 参加者が安全かつスムーズに式典や植樹行事などに参加することができ、移動に支障がないよう、各所に案内板を設置します。
- 案内板は参加者が認識しやすいよう、大会ロゴマークを統一して使用します。
- 案内板はユニバーサルデザインに留意し、参加者が見やすい色彩、大きさにするとともに、見やすい位置、高さに設置します。また、絵文字を使用する等、参加者が一目で分かる表示とします。
- 案内板には、県産材のほか、再利用可能な製品の活用等、環境に配慮した資材の使用に努めます。

6. 電気・給排水・通信設備計画

(1) 電気設備計画

- 会場内で使用する電源は引き込み電源のほか、演出系電源は電源車、その他おもてなし広場周辺は発電機（ジェネレーター）で対応します。
- 電源車、発電機は柵などで囲い、安全対策を十分に行います。

(2) 給排水計画

- 水は給水車等より供給し、排水は回収した後、適正に処理します。

(3) 通信設備計画

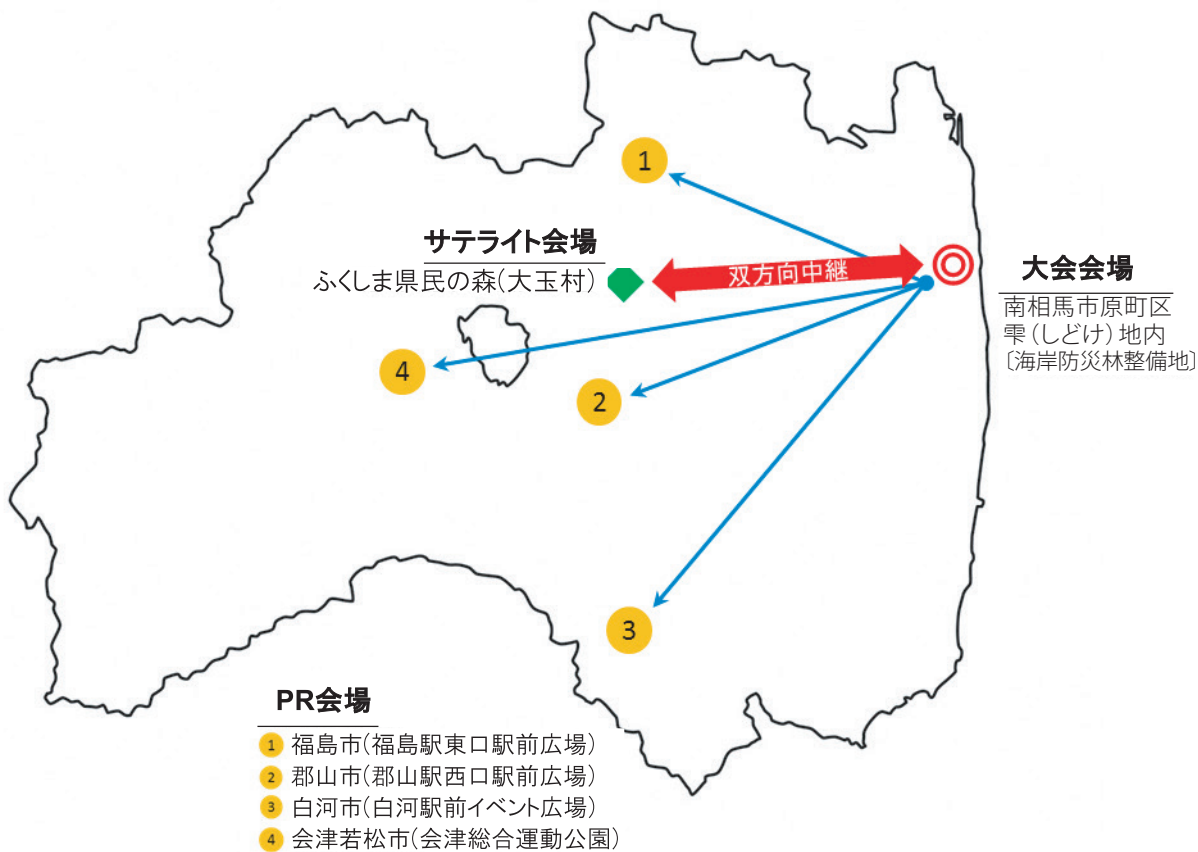
- 運営を円滑に行うため、実施本部等に臨時電話を設置するほか、携帯電話、トランシーバー等の無線通信機器を適正に配置します。

(4) 仮設トイレ計画

- おもてなし広場等に適正な数量を配置します。また、衛生面にも十分配慮します。

7. 中継システム計画

- 式典会場とサテライト会場を中継で結ぶとともに、式典の様子は中継でサテライト会場、各PR会場に配信し、広域開催型の大会を目指します。



1. 基本的な考え方

第69回全国植樹祭が、国内外からの支援に対する感謝と、復興に向かって強く歩み続ける福島を広く発信する大会となるよう、次の事項を基本に運営します。

- 東日本大震災からの本県の復興・再生への取組みについて、来場者を始めとした全国の方々へ発信するとともに、県内外の招待者を福島県らしいおもてなしでお迎えします。
- 運営に当たっては、関係市町村、林業関係団体、経済団体、NPO、ボランティア団体等との連携を図ります。

2. 招待計画

運営上による招待者区分

参加者区分		人数	内訳
①中央特別招待者		70名	国務大臣、公益社団法人国土緑化推進機構会長・理事長、福島県知事、福島県議会議員、南相馬市長、南相馬市議会議員、次期開催県知事、駐日大使 等
②特別招待者	県外特別招待者	270名	県選出国會議員、中央官庁・団体関係者、緑化功労者、コンクール入賞者 等
	県内特別招待者	350名	福島県議会議員、市町村長・市町村議会議員、福島県森林の功労者、実行委員会委員、特別協賛企業、副知事、県教育長 等
	小計	620名	
③一般招待者	県外一般招待者	1,860名	各都道府県知事が推薦する者、本県の復興を支援されてきた方々
	県内一般招待者	3,450名	各市町村長が推薦する者、学校関係者、県内の森林林業関係者、緑の少年団、公募による一般県民 等
	小計	5,310名	
招待者小計(①+②+③)		6,000名	
④出演者・運営スタッフ		3,400名	出演者、運営ボランティア、協力員(市町村職員等)、実施本部員(県職員)
合計(①+②+③+④)		9,400名	

3. 招待者行動計画

当日スケジュール

全体進行	両陛下	中央 特別招待者	特別招待者		一般招待者	
			県外	県内	県外	県内
6:00			指定宿泊地	指定集合地 指定宿泊地	指定宿泊地	指定集合地
			調整地			
8:30		指定宿泊地	植樹会場 ↓ 入場チェック ↓ おもてなし広場			
9:00						
11:00		到着	昼食			
11:30						
12:30		昼食会	おもてなし広場			
13:25		着席	着席			
13:35			プロローグ			
14:20	御到着 ↓ お手植え等 ↓ 御出発	代表者植樹	記念式典			
15:10			エピローグ			
15:40			おもてなし広場 ↓ 順次出発			
17:00						
18:00		駅・空港	駅・空港 ※視察	指定 解散地	駅・空港 ※視察	指定 解散地

4. 受付計画

(1) 招待者受付

- ① 前日受付
 宿泊する招待者については、大会前日、宿泊施設で1回目の受付を行います。
 宿泊施設には招待者用の受付を設置し、円滑にチェックインができるようにします。
- ② 当日受付
 - ・大会当日の受付は、宿舎や指定集合地で、バス等に乗車する前に行います。
 - ・IDカードの紛失や大会用品等が不足した場合に備え、式典会場において不足品の対応ができる体制を整備します。
 - ・円滑な受付や配付物の配付が行えるよう、関係者と連携を図ります。
 - ・式典会場入場時、IDカードや危険物等の入場チェックを行います。

(2) 招待者に配付する記念品等

- 全国植樹祭の開催理念や大会テーマ、本県の森林や産業、観光資源、特産品等を全国に発信するため、記念品等を配付します。
- 記念品の選定に当たっては、県産品の活用を図るとともに、環境に配慮したものとし、遠方からの招待者の持ち帰りやすさにも配慮します。
- 式典の円滑な運営のため、IDカードや帽子等を配付します。

【主な配付物】

- ・全国植樹祭プログラム
- ・記念品（特産品等）等

(3) レセプション受付

前日に開催されるレセプションの受付は下記により行います。

区分	受付場所	受付時間	受付内容
中央特別招待者	会場入口	15:30～17:20	名簿確認、会場案内
特別招待者	会場入口	15:30～17:00	名簿確認、会場案内

5. 作品御覧・レセプション計画

(1) 作品御覧

国土緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクールの優秀作品及び第69回全国植樹祭大会ポスター原画作品を展示し、天皇皇后両陛下に御覧いただきます。

- 【主催】 公益社団法人国土緑化推進機構、福島県
- 【開催日】 平成30年6月9日（土）
- 【会場】 両陛下の宿泊施設内
- 【招待予定者】 国土緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクール入賞者
第69回全国植樹祭大会ポスター原画作者

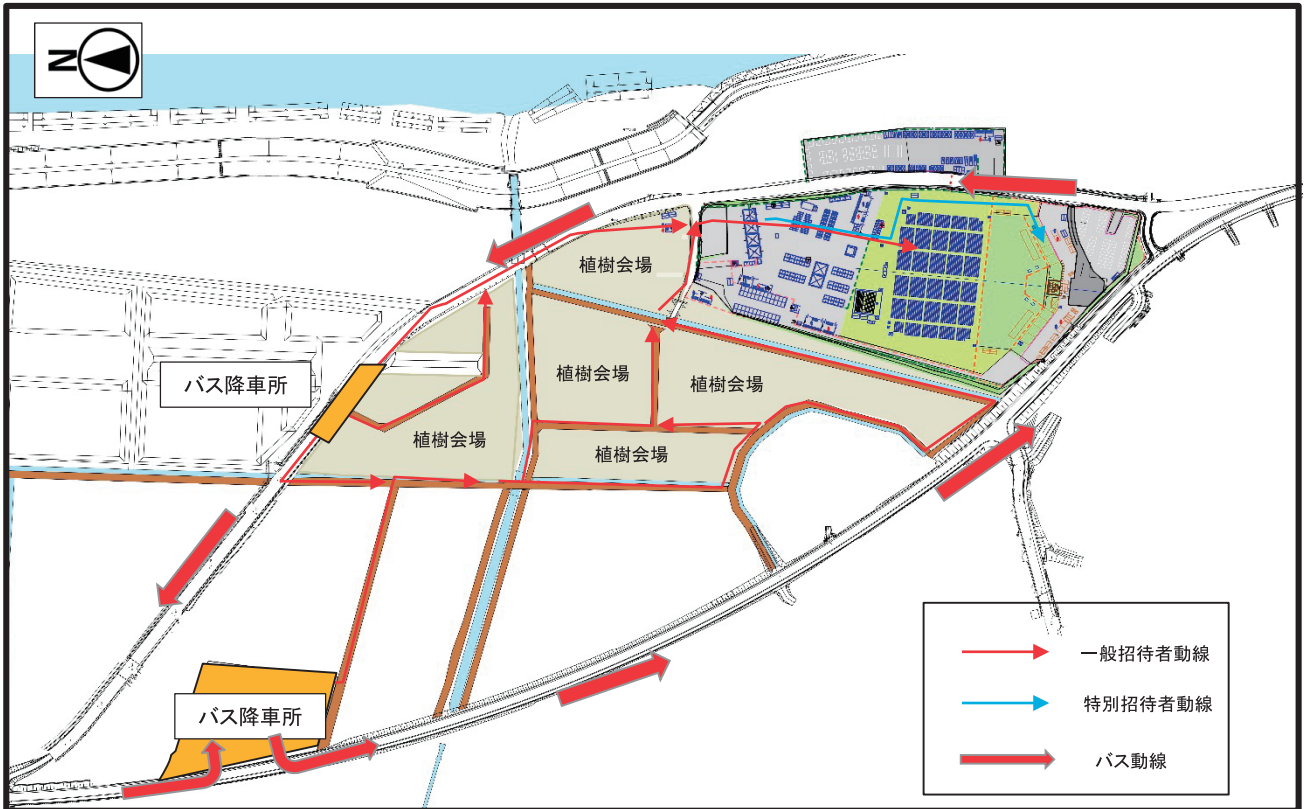
(2) レセプション

天皇皇后両陛下の御来県を歓迎するとともに、第69回全国植樹祭招待者の来訪を歓迎し、懇親を深める場とします。

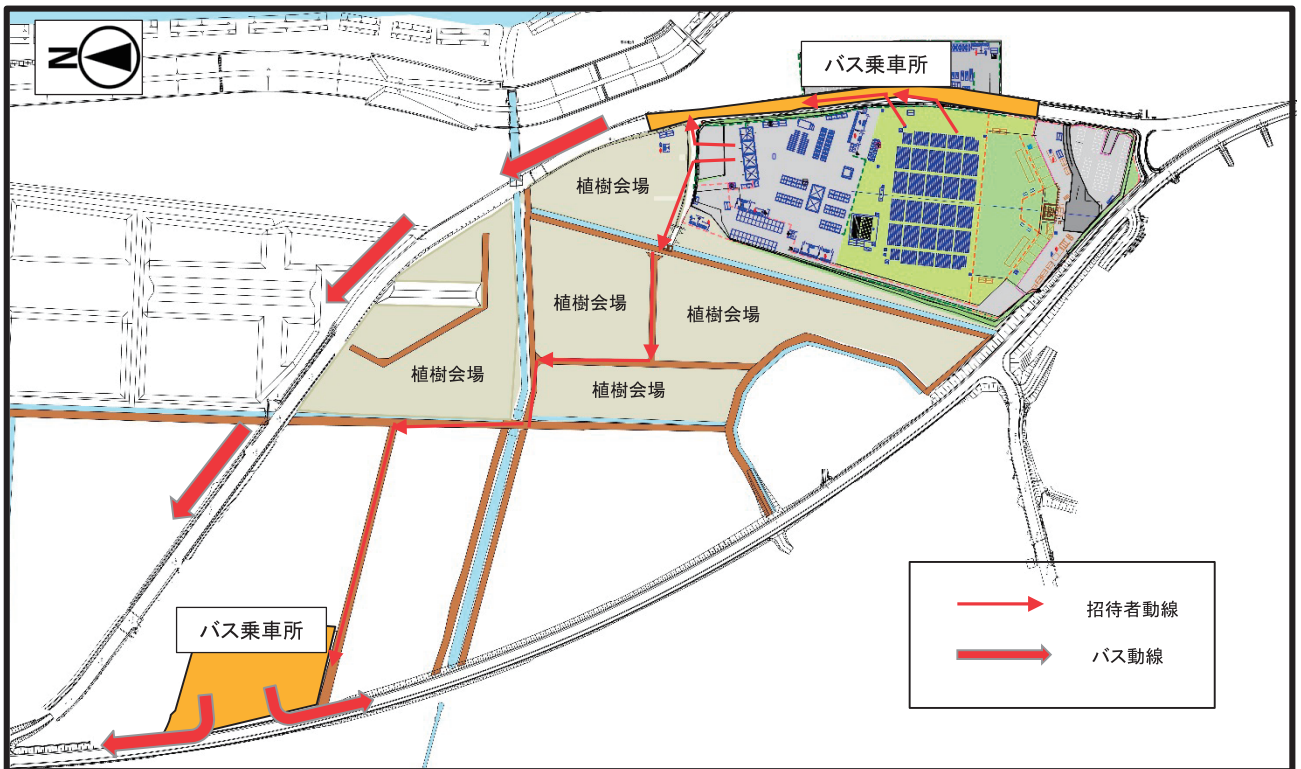
- 【主催】 福島県
- 【開催日】 平成30年6月9日（土） 18：00～19：00
- 【会場】 両陛下の宿泊施設内
- 【招待予定者】 400名程度
 - ・中央特別招待者
〔公益社団法人国土緑化推進機構会長、国務大臣、次期開催県（愛知県）知事、開催地（南相馬市）市長 等〕
 - ・県外特別招待者
（緑化功労者、県選出国會議員、中央団体の長 等）
 - ・県内特別招待者
（福島県森林の功労者、県議會議員、市町村 等）

6. 会場内動線計画

【入場時動線】



【退場時動線】



7. 会場おもてなし計画

- 式典会場内に、おもてなし広場を設けます。招待者が安全・安心・快適に過ごせるよう、総合案内や湯茶接待所、救護所、仮設トイレ等を整備します。
- 本県の森林づくり活動や復興への取組み、観光、県産農林水産物等を招待者に広くPRするため、各種展示コーナーや観光案内所、物産販売ブースなどを関係団体の協力により運営します。
- おもてなしステージでは、音楽や踊りに加え、招待者が楽しめる参加型の演目を行います。
- 地元のボランティアにも協力をお願いし、福島らしいおもてなしが提供できる運営を行います。

【おもてなし広場】

施設名	内容
総合案内所	招待者に対する各種案内、情報提供、案内誘導、各種パンフレットの配布、遺失・拾得物の管理
臨時郵便局	記念切手の販売、郵便や宅配の受付
福島の復興展示コーナー	県内の復興状況の展示
福島の紹介及び特産物販売コーナー	森林づくり活動の紹介、県内の観光PRや特産物の販売
おもてなしステージ	音楽や踊り、招待者参加型の演目の実施
湯茶接待所	招待者への湯茶やミネラルウォーター等の提供
休憩所	休憩場所の提供
救護所	体調不良者、傷病者の救護

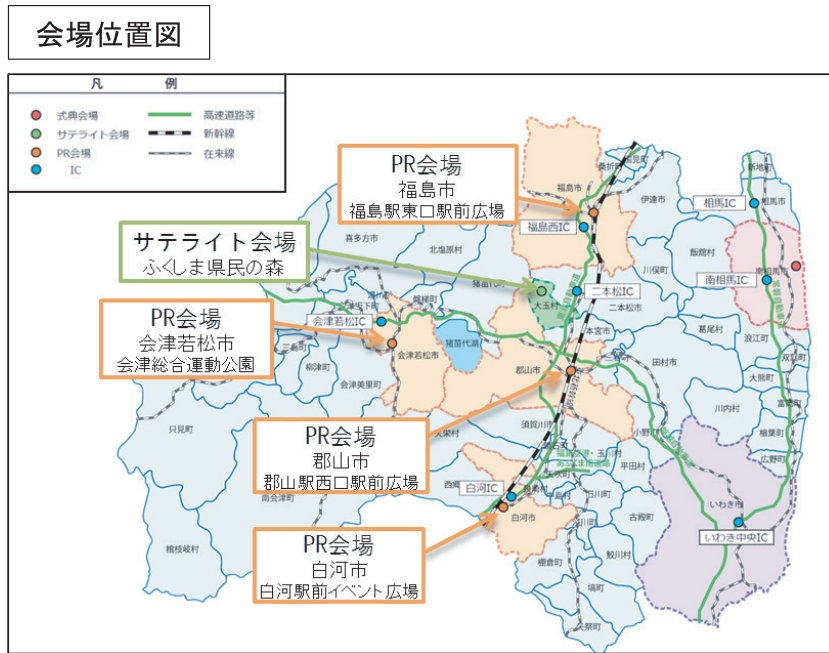


おもてなしステージ
(大会1年前記念イベントより)



福島の紹介及び特産物販売コーナー
(大会1年前記念イベントより)

8. サテライト会場・PR会場計画



【サテライト会場】

会場：ふくしま県民の森フォレストパークあだたら（大玉村）

- 式典参加者のみならず、多くの県民が第69回全国植樹祭を体感できるように、サテライト会場を設置し、植樹活動や式典の放映、各種イベント等を実施します。
- 式典会場とサテライト会場を中継で結び、式典会場と一体となった演出を行います。

会場イメージ



【PR会場】

●全国植樹祭の開催意義や豊かな森林づくりへの取組を広く伝えるため、福島市、郡山市、白河市及び会津若松市の4箇所にPR会場を設置し、式典の放映や各種出展ブースを設置します。

・福島市（福島駅東口駅前広場）



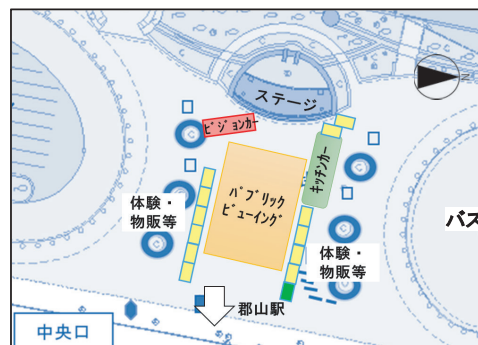
会場イメージ図



・郡山市（郡山駅西口駅前広場）



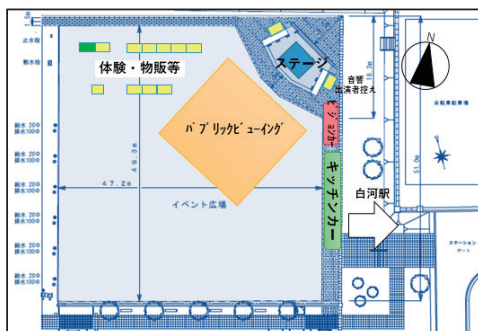
会場イメージ図



・白河市（白河駅前イベント広場）



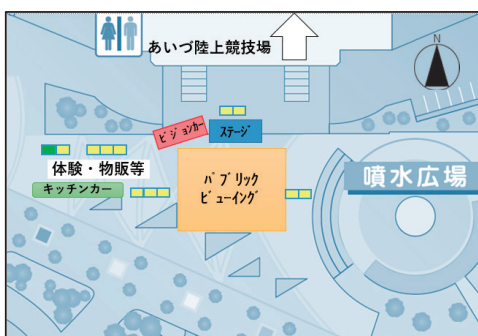
会場イメージ図



・会津若松市（会津総合運動公園）



会場イメージ図



9. 昼食計画

(1) 基本的な考え方

- 県産食材、特産品等を使用し“福島県らしさ”を表した献立とします。
- 弁当の製造、輸送、保管、配付は、衛生面と安全面に万全を期すとともに、容器・包装資材についても環境に配慮したものを使用します。

(2) 昼食場所

- 昼食会参加者以外の招待者は、式典会場内での昼食（弁当）とします。
- 出演者、運営ボランティア、実施本部員等は、原則としてそれぞれ業務に従事する場所での昼食（弁当）とします。
- 弁当の配布については、下表のとおりとし、効率的に配布します。

参加者区分	弁当配布・喫食場所	弁当配布時間
中央特別招待者 (昼食会参加者を除く)	式典エリア (特別招待者席)	招待者席到着時 (11:00～12:00)
特別招待者	式典エリア (特別招待者席)	
一般招待者	式典エリア (一般招待者席)	
出演者等	出演者控所等	随時
ボランティア	本部エリア等	
実施本部員・協力員	本部エリア等	

10. 医療・衛生計画

(1) 医療救護所の設置

- 式典会場等に救護所を設置し、傷病者の医療救護を行います。
- 救護所には医師等を常駐させ、医薬品や休憩用ベッド、AED等を備えます。
- 消防署や近隣医療関係機関の協力を得て、緊急時の搬送・受入れ態勢を整えます。

(2) 衛生対策

- 実施本部の食品衛生班が中心となり、保健所等の協力を得て、食品衛生や環境衛生について関係機関と協議を行い、衛生対策体制を整備します。
- 食の安全を期すため、弁当業者や宿泊施設、会場内の食品提供者等の指導を徹底します。
- 飲食等により発生する廃棄物の適切な処理を行い、式典会場及び周辺的环境美化に努めます。

11. 消防・防災・警備計画

(1) 消防・防災

- 実施本部が中心となり、異常事態の早期発見、通報に努めます。
- 会場内は、喫煙所を除いてすべて禁煙とし、主要施設には消火器を設置します。
- おもてなし広場等の火気使用についても管理を徹底します。
- 避難計画を策定して実施本部員へ周知徹底を図り、参加者全員が安全に避難できる体制を整えます。

(2) 津波災害対策

- 大会会場が東日本大震災の津波浸水区域であることをプログラム等に明記し、参加者へ周知します。
- 福島県地域防災計画や南相馬市地域防災計画を基に、津波災害発生時の避難誘導計画及びマニュアルを策定し、実施本部員へ周知徹底を図り、参加者全員が安全に避難できるようにします。
- 気象庁による津波警報の発表等、津波発生のおそれがある場合は、あらかじめ設定した避難経路により参加者を緊急避難場所へ誘導します。

【避難誘導動線図】



(3) 警備

- 会場内での事件・事故を防止し、円滑な運営を図るため、警察等関係機関と協力して警備を実施します。
- 警備員や実施本部員等を配置して、警備や車両の整理、参加者の誘導を行います。
- 式典会場入場ゲートでは、金属探知機による持ち物検査や入場者の確認を行います。
- 式典会場、植樹会場、駐車場等では、式典使用物品等の搬入後、夜間も含め、監視・巡回警備等を行います。

12. 実施本部計画

- 円滑な運営を図るための実行組織として、「第69回全国植樹祭福島県実施本部」を設置します。
- 県職員その他、関係市町村職員やボランティア等の積極的な協力を得て効率的な要員配置を行い、円滑な実施運営と、参加者の安全性、快適性の確保に努めます。



13. 研修・リハーサル計画

- 円滑な運営に向けて、事前に運営マニュアルを作成の上、実施本部員・協力員の研修を行います。
- リハーサル実施により、実施本部員全員が業務内容を把握できるようにします。

(1) 実施本部員等の研修計画

実施本部員、協力員（関係市町村職員、ボランティア、関係団体の構成員等）の研修は、事前の資料配付、現地視察、リハーサルへの参加等により行います。

(2) リハーサル計画

区分	時期(予定)	場所	参加者	内容
①出演者説明会	5か月前	各所	出演者代表	式典概要・参加内容説明
②合同説明会	開催10～8週間前	各所	出演者代表 実施本部員	式典全体の説明
③式典リハーサル	平成30年 4月22日(日)	式典会場	出演者 (式典アシスタント、 介添者) 実施本部員(一部) 協力員(一部)	式典部分のリハーサル
④総合リハーサル	平成30年 5月13日(日)	式典会場	出演者 実施本部員 協力員	全体通しリハーサル 車両・参加者誘導 接遇研修 非常時訓練 他
⑤荒天リハーサル	平成30年 5月26日(土)	南相馬市 スポーツ センター	出演者 (式典アシスタント、 介添者) 実施本部員(一部)	荒天時の 式典部分のリハーサル
⑥前日リハーサル	平成30年 6月9日(土)	式典会場	出演者 実施本部員 協力員	全体通しリハーサル 車両・参加者誘導 接遇研修 非常時訓練 他

(注) 必要に応じ個別にリハーサルを行う。

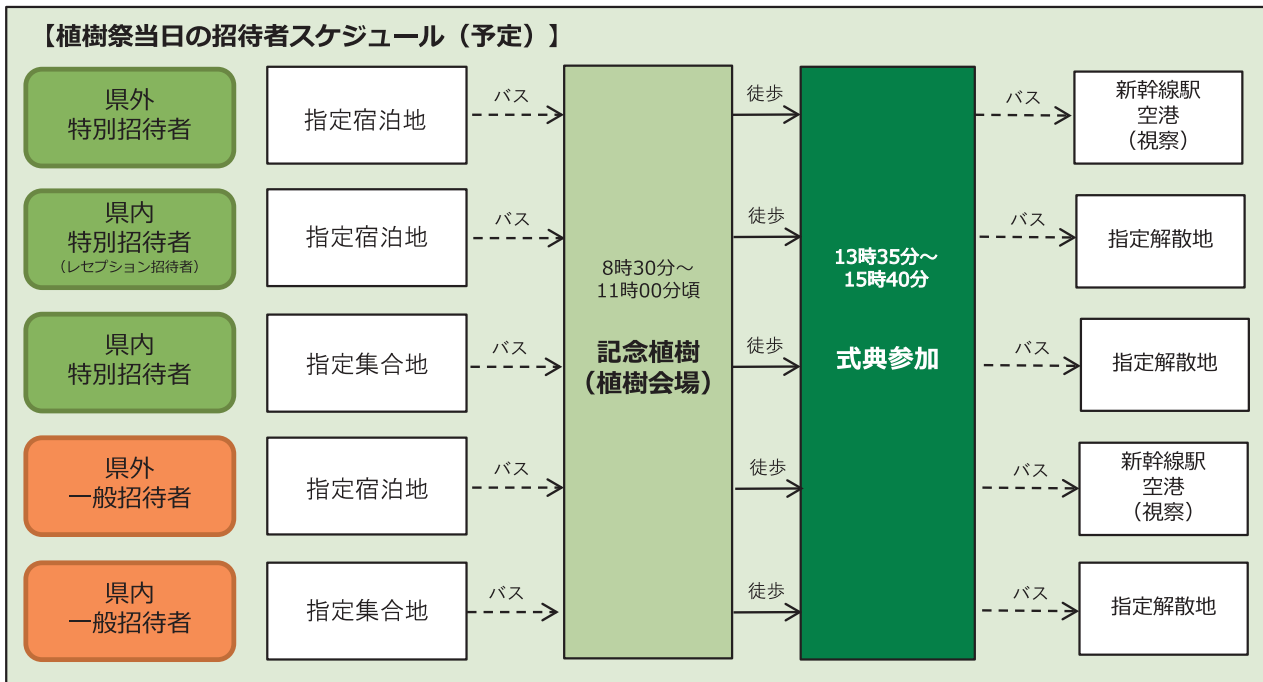
14. 雨天時・強風時対応計画

- 晴天時の計画と同様に行うことを基本に、必要な準備を行います。ただし、雨や風の程度に対応した変更プログラムを作成し、雨天時や強風時にも円滑な運営ができるようにします。
- プロローグやエピローグは天候に応じ、各種団体と協議の上、変更内容を決定します。
- 式典音楽隊の演奏が不可能な場合は、事前に演奏を収録した音源を使用します。
- 会場警備上、傘の持込みができないため、参加者全員にレインコートを事前に配布します。

1. 基本的な考え方

第69回全国植樹祭が、県内外の多くの方が参加できる大会となるよう、次の事項を基本に宿泊・輸送計画を定めます。

- 東日本大震災等からの復旧・復興に対する支援への感謝とおもてなしの気持ちをもって、安全・快適な宿泊・輸送体制を整えます。
- 宿泊施設の収容人員や宿泊料金、本県の広大な県土、東日本大震災等による影響を踏まえた道路交通事情や送迎体制などを総合的に勘案し、無理のない宿泊・輸送体制を整えます。
- 招待者の安全で円滑な輸送を図るため、運行ルートや輸送スケジュールなど関係者で綿密な打ち合わせを行うとともに、添乗員の配置や案内等により快適な輸送体制を整えます。
- 宿泊招待者（主に県外招待者）は、原則として、式典前日に実行委員会が指定する施設に宿泊し、各宿泊施設から、原則として実行委員会が手配するバスにより会場に移動することとします。
- 当日招待者（主に県内招待者）は、県内各地に指定される集合地から、原則として実行委員会が手配するバスにより会場に移動することとします。
- 会場へのアクセス道路沿線の美化については、関係市町村や県民の皆様の協力により美化に努め、招待者を歓迎します。
- 県外招待者の視察コースは、本県の森林・林業・木材産業や自然・文化・歴史に触れることができ、かつ、復興に向けて力強く歩む本県の姿を感じることができるよう内容とします。



2. 宿泊計画

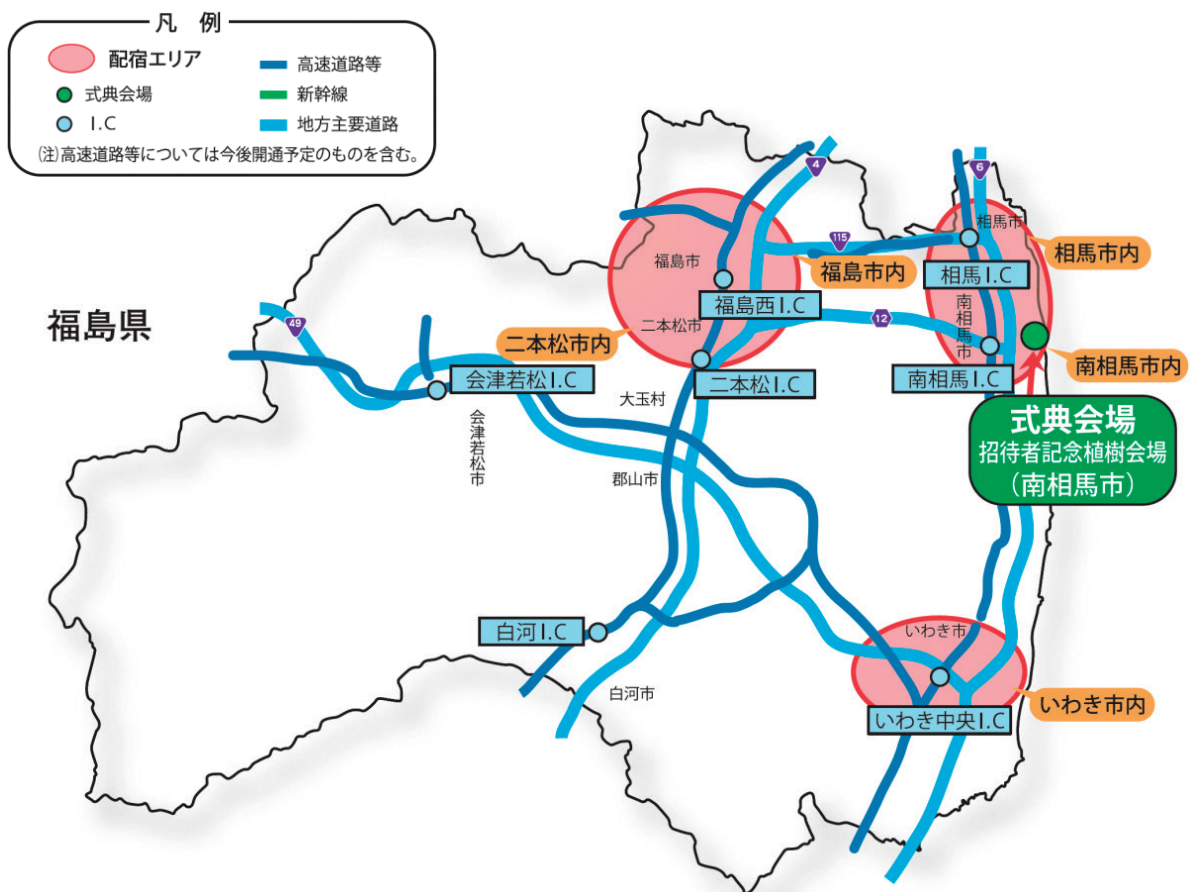
招待者の宿泊施設は、交通の利便性や快適性を考慮して、実行委員会が指定します。

(1) 宿泊施設の選定

- 植樹行事及び式典行事のスケジュール、東日本大震災等による影響を踏まえた道路状況やアクセス等を総合的に勘案し、適切な宿泊エリア・宿泊施設を選定します。
- フロントやロビー等宿泊施設内に専用デスクを設置し、招待者に大会用品等（植樹祭関連資料、IDカード、帽子等）を円滑かつ確実に配付できる体制を整備します。
- 施設敷地内又は近隣で、計画輸送バスの安全な乗降場所を確保できる宿泊施設を選定します。
- 本県の食材や自然・文化・歴史等とのふれあいができるよう、おもてなしの心をもってお迎えします。
- 食事のメニューについては、本県の食のPRに努め、来県を楽しんでいただけるよう配慮します。
- 消防法や食品安全衛生法等法令に基づく基準を満たすことはもちろん、緊急時に搬送できる救急病院や緊急時対応者、施設内のAED（自動体外式除細動器）の設置状況を事前に把握し、万が一の事故に備えます。

(2) 宿泊候補地

- 式典会場までの交通事情等を考慮し、宿泊が必要な招待者や式典出演者などの大会関係者は、相馬地域、県北地域及びいわき地域に宿泊することとします。
- 全国植樹祭前日に開催する「第47回全国林業後継者大会」に参加する県外招待者などは、いわき地域に宿泊することとします。

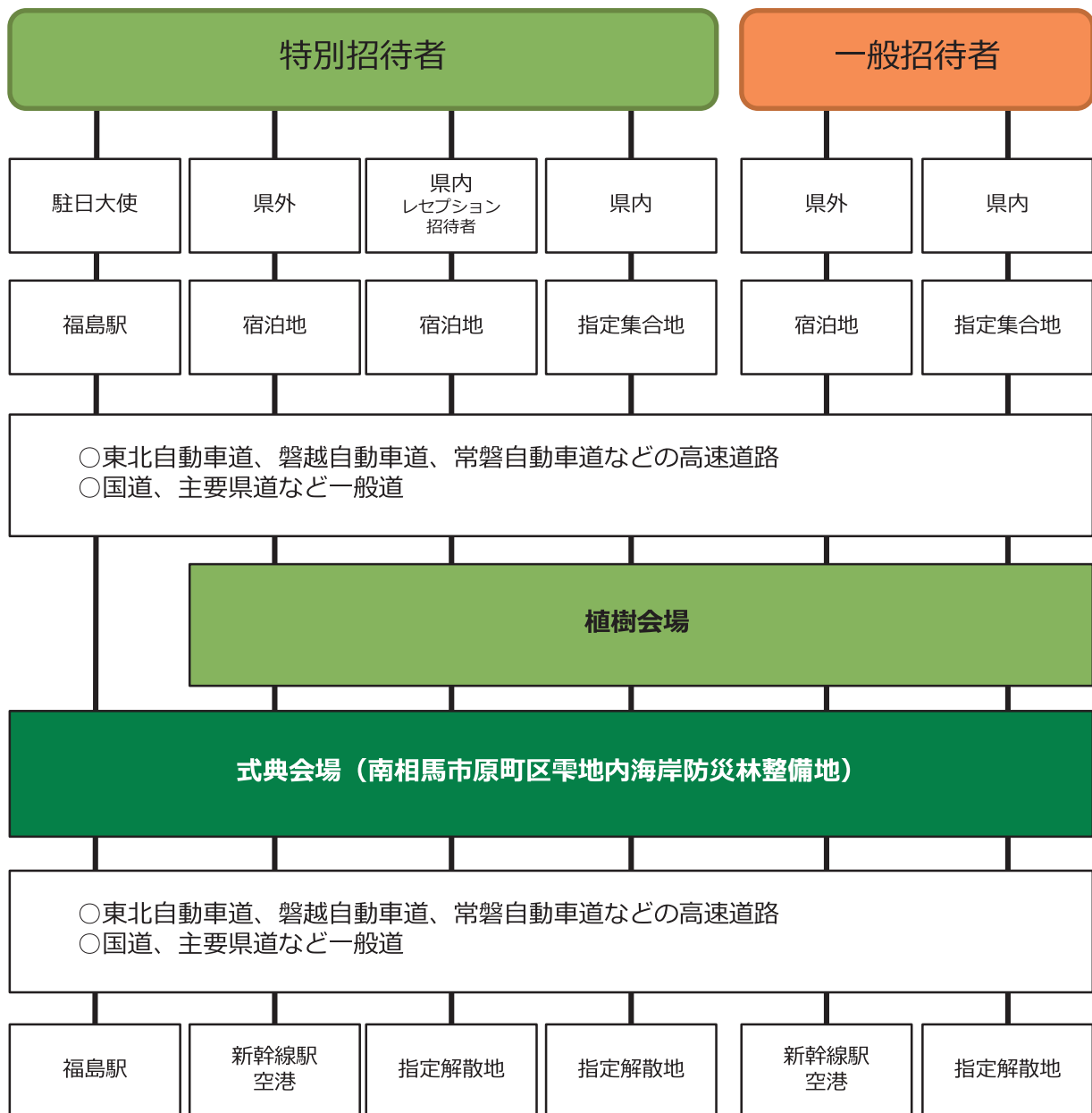


3. 輸送計画

(1) 輸送方針

- 招待者はバスで輸送することを基本とし、招待者区分ごとに輸送計画を作成します。
- 式典当日の道路混雑等のリスクを想定し、できるだけ移動時間のかからない最短ルートを設定します。
- 招待者等の安全で円滑な輸送を行うため、仮輸送計画（シミュレーション）を策定し、バス事業者、関係機関と協議・検討の上、運行ルートを決めます。
- 交通事故や渋滞等の不測の事態に備え、使用するインターチェンジの分散を図るとともに、代替ルートや迂回ルートの設定を行います。
- 植樹会場と式典会場が隣接している本大会特有の事情を踏まえ、招待者が円滑に降車から植樹、式典会場への入場ができるよう調整地を設け、計画輸送バスの円滑な運行を図ります。

(2) 輸送フロー



4. 視察計画

- 本県の森林・林業・木材産業や自然・文化・歴史に対する理解を深めるとともに、復興に向けて力強く歩む本県の姿を理解することができるような視察コースを設定します（下記の主な候補地を中心に選定）。
- 価格設定やコース設定等に当たり、参加者のニーズを捉えることにより、参加率を高めるように努め、観光振興も図ります。
- 全国植樹祭翌日の日帰りコースとし、少人数でも参加可能なジャンボタクシー利用のコースを設定します。

エリア	主な候補地
県北	磐梯吾妻スカイライン、福島市小鳥の森、陶芸の杜おおぼり二本松工房、霞ヶ城、智恵子記念館、伊達市旧亀岡家住宅、フォレストパークあだたら、あだたら山ロープウェイ 等
県中	福島県環境創造センター、高柴デコ屋敷、郡山布引高原風力発電所、岩瀬牧場、ブリティッシュヒルズ、あぶくま洞 等
県南	白河小峰城、南湖公園、白河関跡、棚倉城跡、山本不動尊、都々古別神社 等
会津	裏磐梯エリア、蔵のまち喜多方、日本酒蔵元、恵日寺跡、天鏡閣、昭和の森、野口英世記念館、鶴ヶ城、御薬園、飯盛山、日新館、武家屋敷、伊佐須美神社、福満虚空蔵尊 等
南会津	大内宿、塔のへつり、会津田島祇園会館、前沢曲家住宅 等
相双	松川浦復興チャレンジグルメ、相馬中村神社、相馬市伝承鎮魂祈念館、南相馬市博物館、セデッテかしま 等
いわき	アクアマリンふくしま、いわき・ら・ら・ミュウ、塩屋埼灯台、白水阿弥陀堂、スパリゾートハワイアンズ、マリンタワー、勿来の関、目兼杉展示林 等

1. 基本的な考え方

暴風雨、集中豪雨等の荒天に見舞われ、屋外会場での式典実施が困難となった場合は、次の事項を基本に荒天会場で式典を行います。

- 開催日の1週間前から気象情報の収集に努め、屋外会場での式典の実施の可否を判断します。
- 荒天会場での式典実施の決定に備え、関係機関と万全の連絡体制を構築し、円滑な実施運営を行います。

2. 会 場

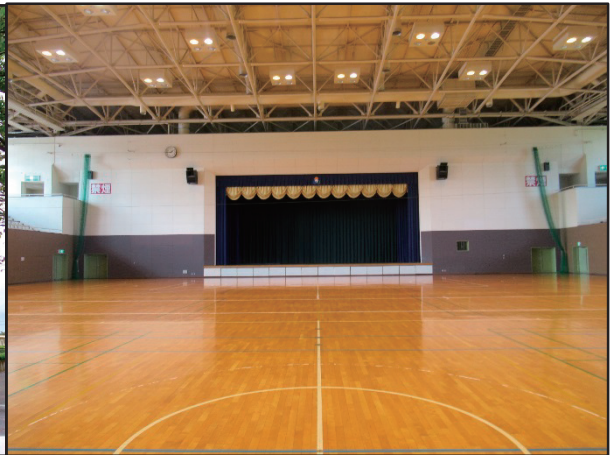
南相馬市スポーツセンター



【会場外観】



【会場内観】



3. 参加者一覧

区分	人数	内 訳
中央特別招待者	70名	国務大臣、公益社団法人国土緑化推進機構会長及び理事長、林野庁長官、福島県知事及び県議会議長、南相馬市長及び市議会議長、次期開催県知事、駐日大使 等
県外特別招待者	270名	県選出国會議員、中央官庁・団体関係者、緑化功労者、コンクール入賞者 等
県外一般招待者	1,860名	各都道府県知事が推薦する者、本県の復興を支援されてきた方々
県内特別招待者	350名	県議會議員、市町村長及び市町村議會議長、福島県森林の功労者、実行委員会委員、特別協賛企業、副知事、県教育長 等
運営スタッフ	450名	運営ボランティア、実施本部員 等
合計	3,000名	

4. 荒天時運営計画

(1) 式典計画

- 晴天時の3部構成（プロローグ、記念式典、エピローグ）のうち、記念式典のみとし、アトラクションや代表者植樹を除いた構成とします。
- 式典音楽は、事前収録した音源やCDを使用します。
- 式典の時間は40分程度とします。

(2) 式典プログラム

区分	プログラム
	招待者入場
14:10	国務大臣、福島県知事、愛知県知事、南相馬市長等 到着
	式典
14:20	天皇皇后両陛下 御到着 黙とう 開会のことば 三旗掲揚・国歌斉唱 主催者挨拶 表彰 苗木の贈呈 天皇皇后両陛下のお手植え・お手播き 大会宣言 リレーセレモニー
15:00	閉会のことば 天皇皇后両陛下 御退席
	招待者退場

1. 基本的な考え方

第69回全国植樹祭の開催機運を高めるとともに、本県の森林や身近な緑の大切さを県民に広く周知するため、次の事項を基本に記念事業等を実施します。

- 幅広い人々が参加し、楽しみながら森林づくりを体験できるよう県内全域で展開します。
- 大会終了後も県民がこの大会の開催意義を継承し、引き続き県民参加の森林づくり活動の取組みに役立つものとしします。

2. 記念事業

全国植樹祭の開催理念を実現するため、第69回全国植樹祭福島県実行委員会などが実施します。

① 大会1年前記念イベント

- 時期 平成29年6月11日（日）
- 場所 伊達市「霊山こどもの村」
- 内容 式典、記念植樹、木工工作体験、木製プランターカバー製作、チェーンソーアートショー、特産品の展示販売、ステージアトラクション 等



② 大会200日前記念イベント（第15回うつくしま育樹祭）

- 時期 平成29年11月11日（土）
- 場所 南相馬市原町区雫地区
- 内容 記念植樹、育樹活動、丸太切り体験、薪割り体験、木製プランター製作、全国植樹祭会場の見学 等



③ 大会200日前カウントダウンスタートセレモニー

- 時期 平成29年11月22日（水）
- 場所 郡山市
- 内容 GReeeeN書き下ろしの大会テーマソング「福ある島」の披露及び、開催日の200日前を記念し、大会までの残日数を表示する「カウントダウンボード」の除幕を実施（カウントダウンボードは、福島駅、郡山駅、新白河駅、会津若松駅、いわき駅、会津田島駅、南相馬市役所、フォレストパークあだたらに設置）。



④ 大会100日前記念イベント

- 時 期 平成30年2月
- 場 所 二本松市
- 内 容 直前に迫った全国植樹祭の開催機運を盛り上げるため、森林づくりに関するシンポジウムを開催。

⑤ 全国植樹祭シンボル「木製地球儀」巡回展示

- 時 期 平成29年6月16日～平成30年4月25日
- 場 所 全市町村
- 内 容 第69回全国植樹祭の開催機運を盛り上げるため、県内全市町村で全国植樹祭のシンボルである「木製地球儀」の巡回展示を実施。



⑥ 苗木のスクールステイ

- 時 期 平成27年～30年
- 内 容 県内131校の小学校の参加により、全国植樹祭等で使用する苗木を育成。

⑦ 苗木のホームステイ

- 時 期 平成28年～30年
- 内 容 県内の企業等90団体、一般家庭73戸の参加により、全国植樹祭で使用する苗木を育成。



⑧ 森林とのきずなづくり植樹リレー

- 時 期 平成28年～30年
- 場 所 全市町村
- 内 容 大会開催までに県内各地域で開催される植樹活動（地方植樹祭、企業の森、学校行事等）をリレーでつなぐ。
全国植樹祭の大会会場をゴールとする。



⑨ 森林づくり交流会

- 時 期 平成27～29年
- 場 所 ふくしま県民の森（大玉村）他
- 内 容 自然の中での様々な学習を通じ、子どもたちが森林の大切さを体験する機会を提供。



⑩ お手播き種子の採取

- 時 期 平成29年6月27日（火）
- 場 所 三春滝ザクラ（三春町）※国指定の天然記念物
- 内 容 皇后陛下にお手播きいただくベニシダレの種子を、三春滝ザクラの地元・中郷小学校の緑の少年団により採取することにより、開催機運の醸成を図る。



⑪ 記録誌・記録映像の作成

- 内 容 大会式典行事、植樹行事を始め、各種の記念行事や県民運動の活動状況等を記録誌や記録映像（DVD）等に編纂。

⑫ 記念碑の建立

- 内 容 大会開催を記念し、大会会場地に記念碑を建立。

3. 関連事業

県内の関係団体が主催する事業のうち、全国植樹祭の開催理念と関連があるものについて、実行委員会と連携して行います。

① 第47回全国林業後継者大会

- 時 期 平成30年6月9日（土） ※第69回全国植樹祭開催日の前日
- 場 所 いわき芸術文化交流館アリオス
- 内 容 全国の林業関係者等が一堂に会し、豊かな森林を次世代へ継承する決意を全国へ発信（林業者の活動報告、パネルディスカッション等）。

② 各地で実施する緑化関連イベント

- 場 所 県内各地
- 内 容 うつくしま育樹祭や福島県林業祭、地方植樹祭等において、開催理念の普及・啓発を図る。



（第15回うつくしま育樹祭）

1. 基本的な考え方

第69回全国植樹祭の開催機運を高めるため、次の事項を基本に広報宣伝を行います。

- 広報宣伝や協賛募集を通じて、大会に向けた様々な取り組みや豊かな森林づくりとそれを支える森林資源の利活用の大切さについて広くPRします。
- 広報媒体の特性を活かした情報発信により、効果的な広報活動を実施します。

2. 広報宣伝計画

全国植樹祭の開催理念や事業の展開について、広く普及・啓発を図ります。

- 大会の内容や大会に向けた様々な取り組み等を周知するため、第69回全国植樹祭情報誌を定期的に発行します。
- 大会ホームページにおいて、各種イベントや県内の森林づくり・林業に関する情報を積極的に発信するとともに、各種の問い合わせや申し込みなどについてもインターネットを効果的に活用します。
- 大会テーマ、シンボルマーク及び大会ポスター原画を活用し、大会の開催を県内外に周知します。

3. 協賛計画

(1) 基本的な考え方

- 第69回全国植樹祭を一過性のイベントとして終わらせることなく、大会を契機として県民参加の森林づくりが広がるよう、公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会と連携し、企業・団体等や個人の皆様に、広く支援を求めています。
- 東日本大震災による津波で失われた海岸防災林の再生に携わることができるよう、植樹活動の機会を提供します。
 - ① 資金協賛
植樹祭行事の実施に必要な資金の提供。
 - ② 物品協賛
植樹祭行事の実施に必要な物品の提供。
例) 広報活動用車両・スタッフ用ベスト、招待者へ配付する物品
式典で使用する木製品、式典行事や植樹行事で使用する物品
 - ③ その他
車両・機器等の無償貸与、役務の提供、広告掲示などによる協力。

(2) 協賛企業等による森林づくり

- 第69回全国植樹祭に一定額以上協賛を頂いた企業等には、式典会場の隣接地「全国植樹祭支援の森」において植樹活動を行う機会を提供します。

第69回全国植樹祭 実施計画 [概要版]

平成30年2月

第69回全国植樹祭福島県実行委員会事務局

[福島県農林水産部全国植樹祭推進室内]

〒960-8043 福島県福島市中町8-2 (自治会館内)

Tel 024-521-8628 Fax 024-521-8658

E-mail syokujusai@pref.fukushima.lg.jp